

## 《西林寺》

西林寺は、四国八十八ヶ所霊場第48番札所です。寺伝では、奈良時代に聖武天皇の勅願により行基（ぎょうき）菩薩が刻んだと言われる十一面観音像を、弘法大師空海（こうぼうだいし くうかい）が小野地区の播磨塚あたりから、移して安置したのがはじまりであるとされています。

近くに、西林寺奥の院「杖の淵」という弘法大師ゆかりの泉があります。その昔、弘法大師が四国を巡礼し、この地に立ち寄った際に、村は大かんばんつで、人々が苦しんでいました。弘法大師は、村人を救うために杖を突き、近くで清らかな水脈を見つけたとされています。「杖の淵」はその遺跡とされ、水は涸れることなく土地を潤し「全国の名水百選」にも選ばれています。

また、清流にのみ育つ「ていれぎ」（松山市の天然記念物。和名オオバタネツケバナの松山地方での方言名。刺身の「つま」にもされる。）の里としても親しまれています。西林寺の門前には、正岡子規の次の句碑が残されています。

【秋風や 高井のていれぎ 三津の鯛】



【仁王門】



【本堂】



【大師堂】



【境内】